

The background features a complex network of white lines connecting small white dots, overlaid on a series of overlapping, semi-transparent blue triangles of various shades. This creates a modern, digital, and interconnected aesthetic.

そのデータ、活用できてる？

～ここからは始めるデータ活用～

分科会名

～データサイエンスをビジネスに～



Agenda

1. 分科会の目標
2. データ活用の現状と課題
3. 目標達成へのアプローチ
4. 成果物の活用
5. まとめ



Agenda

1. 分科会の目標
2. データ活用の現状と課題
3. 目標達成へのアプローチ
4. 成果物の活用
5. まとめ

テーマ紹介

研究テーマ

データサイエンスをビジネスに
～組織を超えたデータ活用による価値創造～

このテーマのもと、各地から様々なメンバーが集まった！



メンバー紹介

★リーダー

佐藤 洋輔

JR東日本情報システム



☆サブリーダー

西田 忠輔

西部ガスホールディングス



☆サブリーダー

中村 優太

アシスト



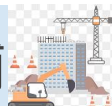
曹 妍

TOPPANエッジ



神田 真輔

清水建設



柳野 湧太

ジャックス



メンバー紹介

前田 朕希
シー・アイ・シー



福田 結文
トランコムITS



若松 弘
日本テクノス



村田 沙織
PALTAC



木谷 真克
アシスト



谷 徳斗
TIS



高橋 遼光
エムアンドシーシステム



加藤 聖矢
鈴与システムテクノロジー





テーマから連想されるワード

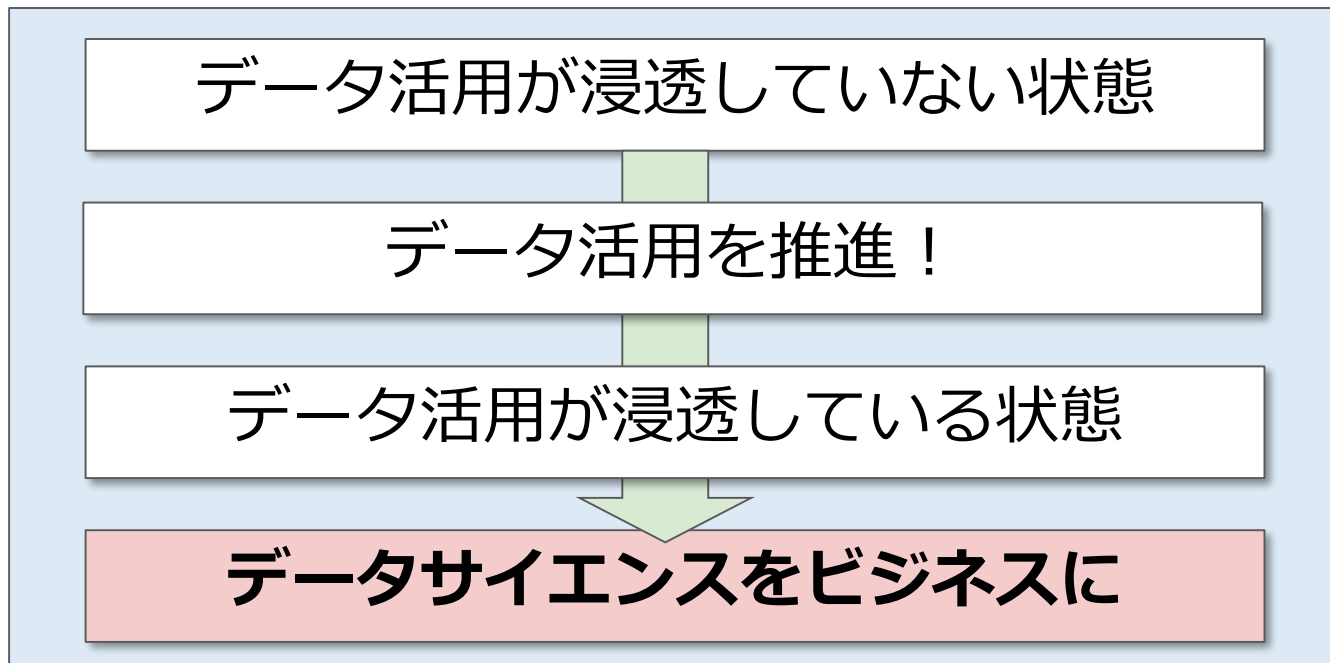
研究テーマ


データサイエンスをビジネスに
～組織を超えたデータ活用による価値創造～

連想されるワード

- データサイエンスの具体的な手法
- データサイエンティストの育成、活用
- データサイエンスを用いた新たなビジネスの創造

データサイエンス→ビジネスの流れ





メンバーのデータ活用状況

- データ活用が積極的に行われている … **0名**
- データ活用が部分的に行われている … 4名
- データ活用がほとんど行われていない … 7名

母数：アンケート当日参加者

メンバーの現状

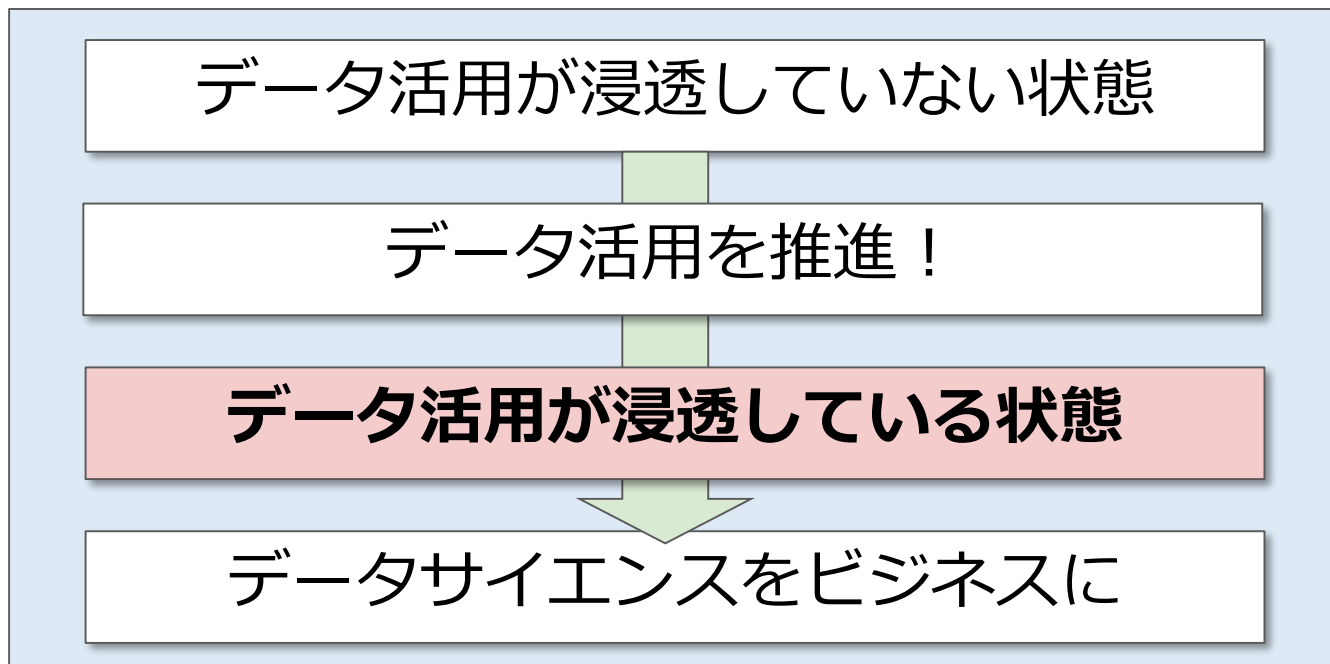
データ活用が浸透していない状態

データ活用を推進！

データ活用が浸透している状態

データサイエンスをビジネスに

活動のターゲット





分科会の目標

目標

データを意思決定や行動の基盤とする文化が、
個人や組織全体に浸透した状態を実現したい！



Agenda

1. 分科会の目標
- 2. データ活用の現状と課題**
3. 目標達成へのアプローチ
4. 成果物の活用
5. まとめ

調査方法



- インターネット
 - データ活用に関する世間一般の現状について情報を得た



- ソ研参加者へのアンケート
 - 62名より回答をいただき、ソ研参加者の所属会社の現状について情報を得た

インターネットによる調査

調査時に確認した情報（一部）

| 参考情報名 | 出典元 |
|--------------------------------|----------------|
| デジタルデータの経済的価値の計測と活用の現状に関する調査研究 | 総務省 |
| 令和3年版 情報通信白書 | 総務省 |
| データ利活用のポイント集 | 経済産業省 |
| 包括的データ戦略 | デジタル庁 |
| DX白書2023 | 独立行政法人情報処理推進機構 |

世間一般の現状

データ分析を行う人材の確保に課題


データ分析の体制

| | 専門部署 担当 | 事業部署 専任担当 | 専門では ない人 | | 共同分析 |
|--------------|------------|--------------|-------------|------|------|
| 全体 n=1426 | 41.9 | 42.4 | 47.3 | 12.1 | 5.0 |

【考えられる課題】

- ・役割が定まっていない
- ・スキルが十分でない

(出典) 総務省 (2020) 「デジタルデータの経済的価値の計測と活用の現状に関する調査研究」より作成



アンケートによる調査

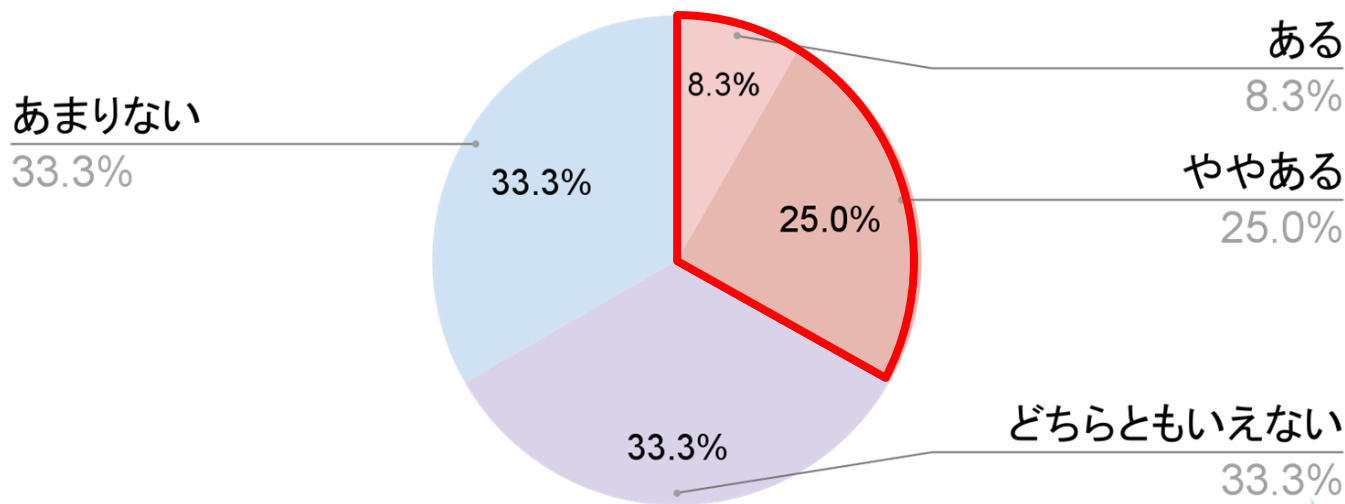
ソ研参加者へのアンケートの設問（一部）

| 設問 | 回答形式 |
|-----------------------------------|------|
| 社内でデータを使って意思決定する風土はありますか？ | 選択式 |
| データを使った意思決定はどのレイヤーで行われていますか。 | 選択式 |
| ご自身がデータ活用するうえでの課題や問題点があれば教えてください。 | 自由記述 |

ソ研参加者の所属会社の現状

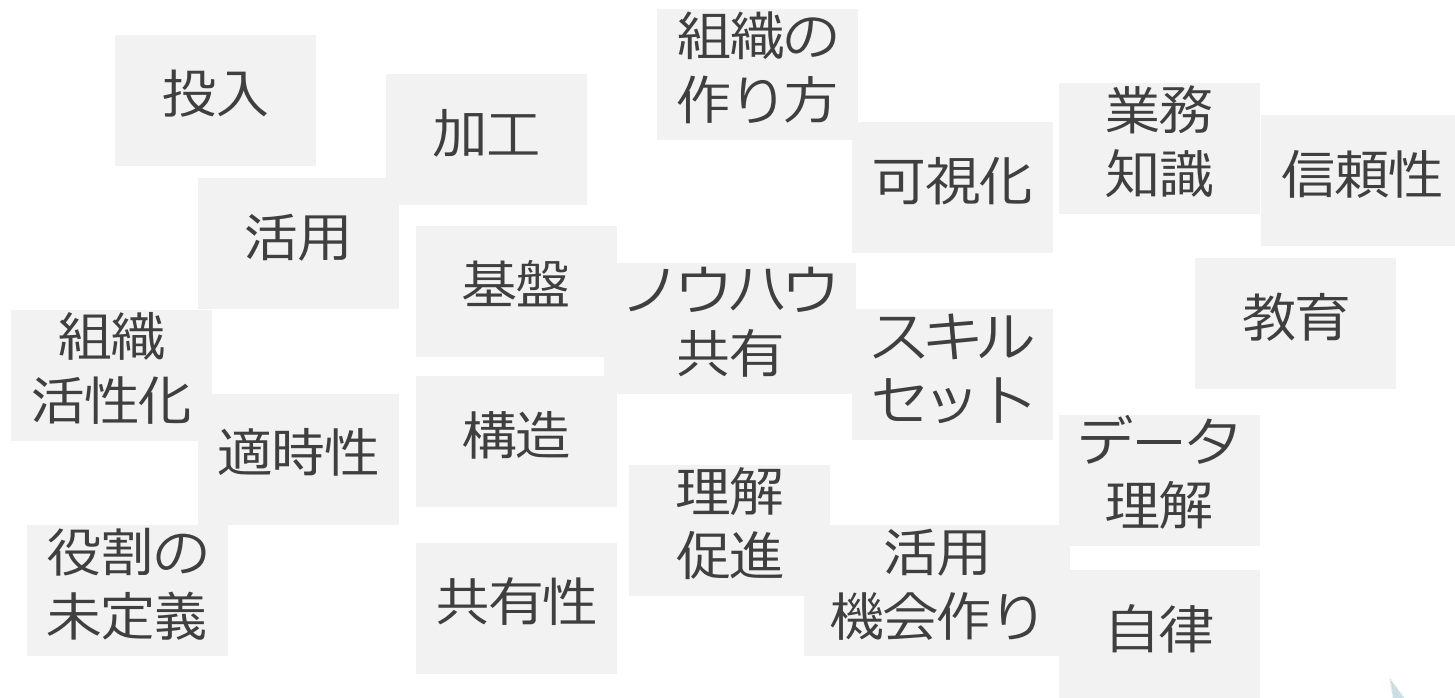
データが活用出来ている企業は多くない

社内でデータを使って意思決定する風土はありますか
管理職のみ対象:n=24



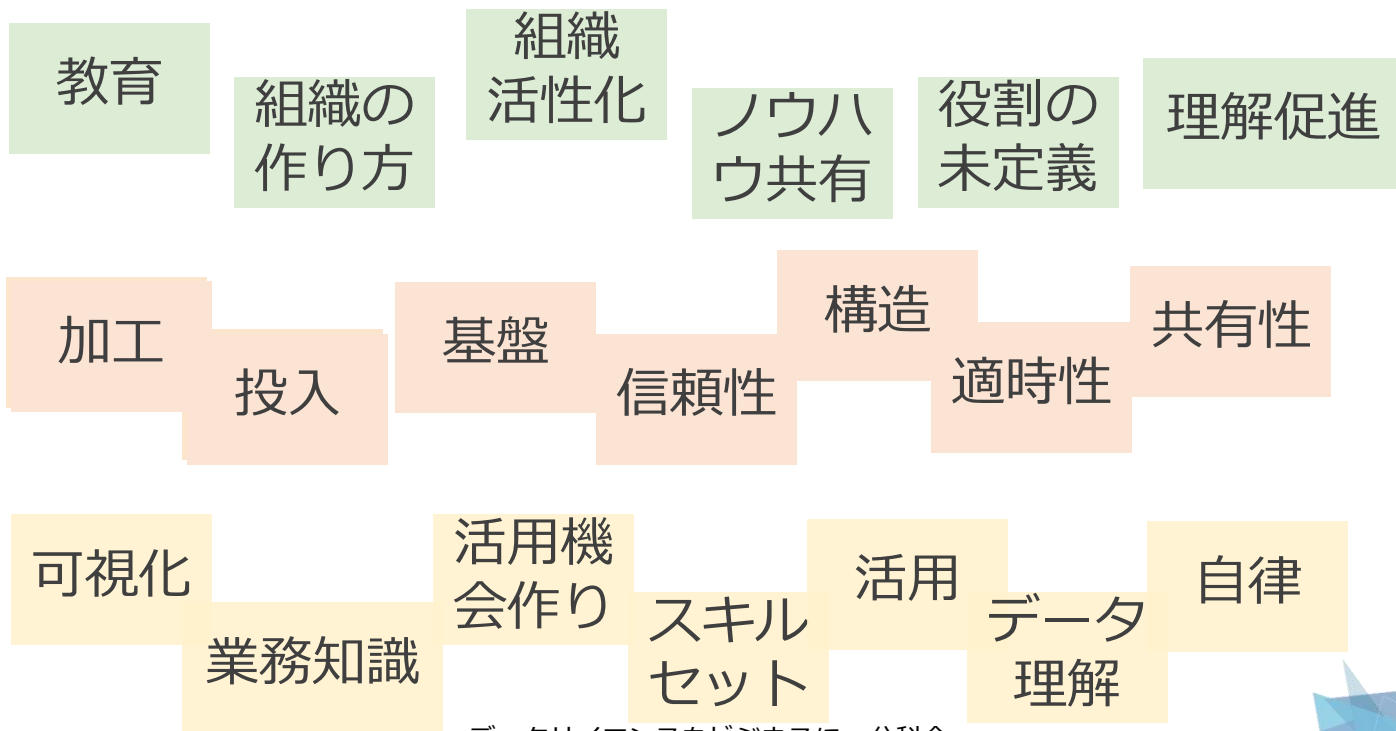
データ活用における課題

インターネット、アンケートによる調査結果から抽出



課題の整理

抽出した課題を分類





課題の分類（領域）

I. 推進の仕組み

- 組織・役割・推進体制に関する課題

II. データの準備

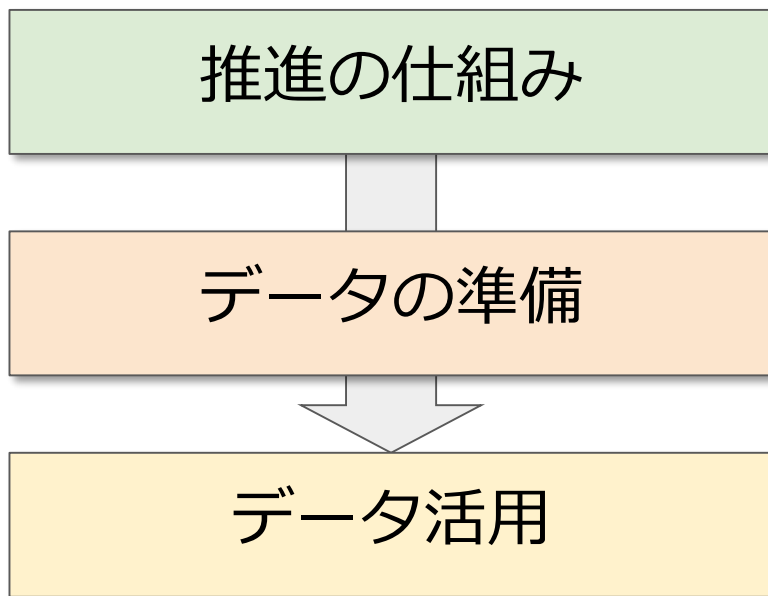
- データを準備するときの課題

III. データの活用

- データを活用する業務部門の課題

課題の分析

仕組み→準備→活用の順番で検討が必要





Agenda

1. 分科会の目標
2. データ活用の現状と課題
- 3. 目標達成へのアプローチ**
4. 成果物の活用
5. まとめ

領域と取り組む順番はわかったが

領域内の何から手をつけていいかわからない！

I. 推進の仕組み

教育

組織の
作り方

組織
活性化

ノウハ
ウ共有

役割の
未定義

理解促進

II. データの準備

加工

投入

基盤

信頼性

構造

適時性

共有性

III. データの活用

可視化

業務知識

活用機
会作り

スキル
セット

活用

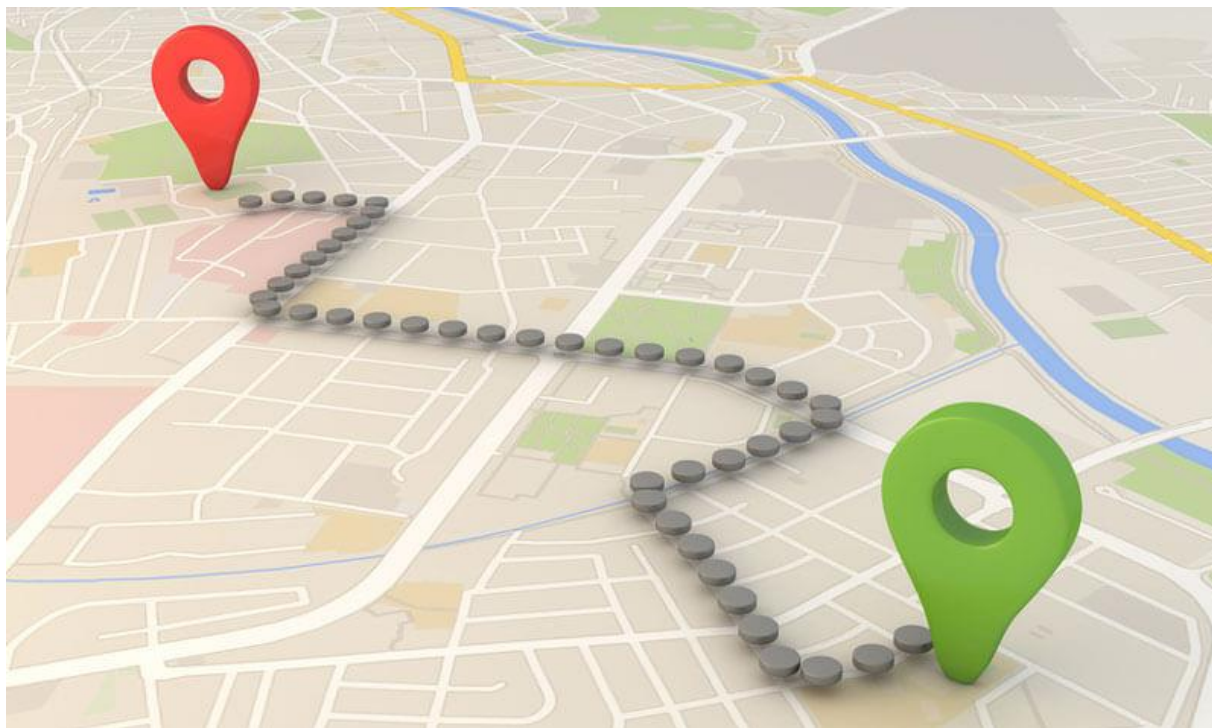
データ
理解

自律



現状とゴールがわかるもの

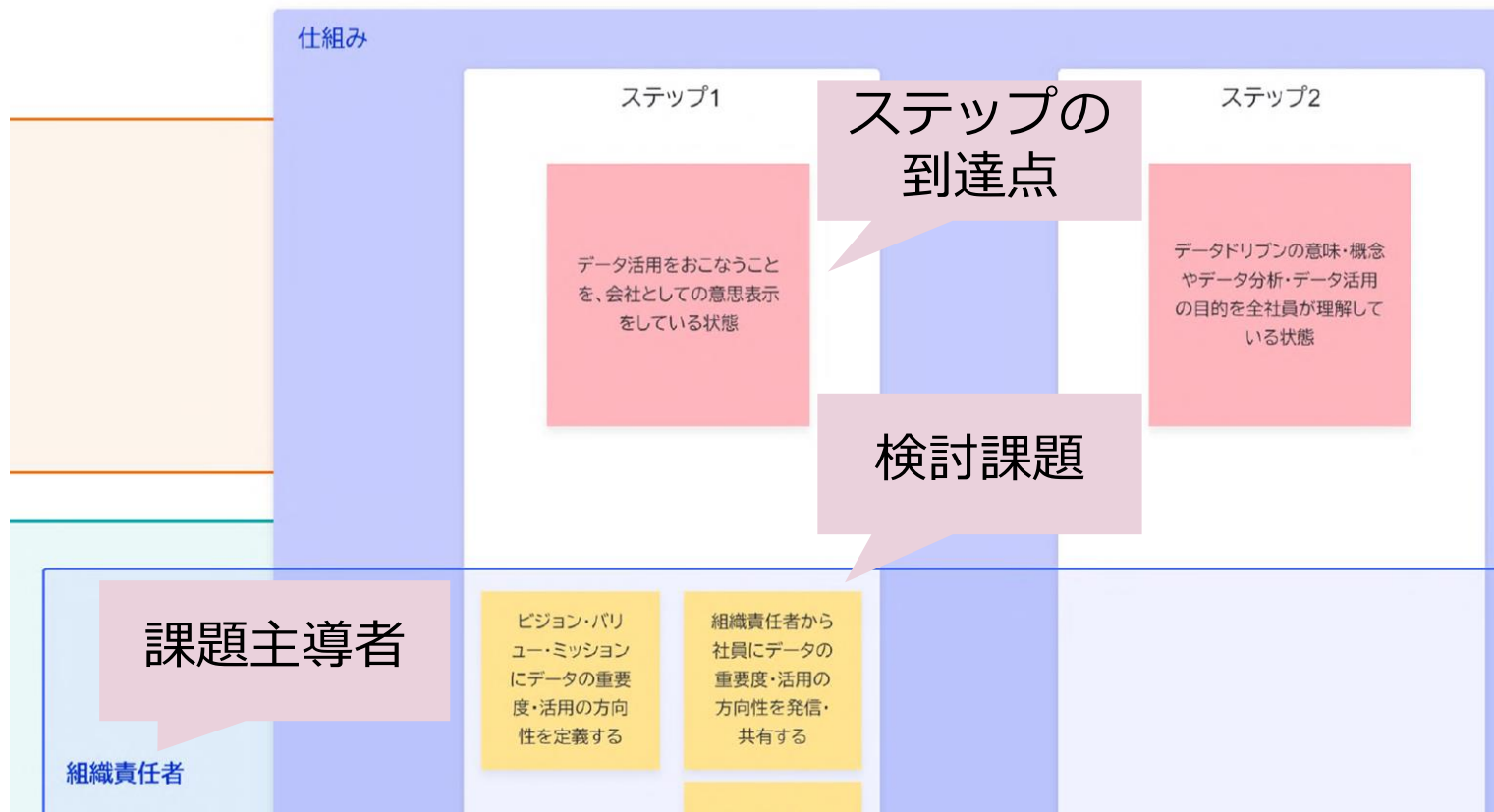
現在地と目的地までのルートが分かる = 地図



全体構成



データ活用文化醸成マップの構成要素



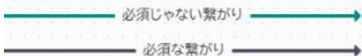
配布資料（到達点のみ抜粋）

データ活用文化醸成マップの到達点抜粋

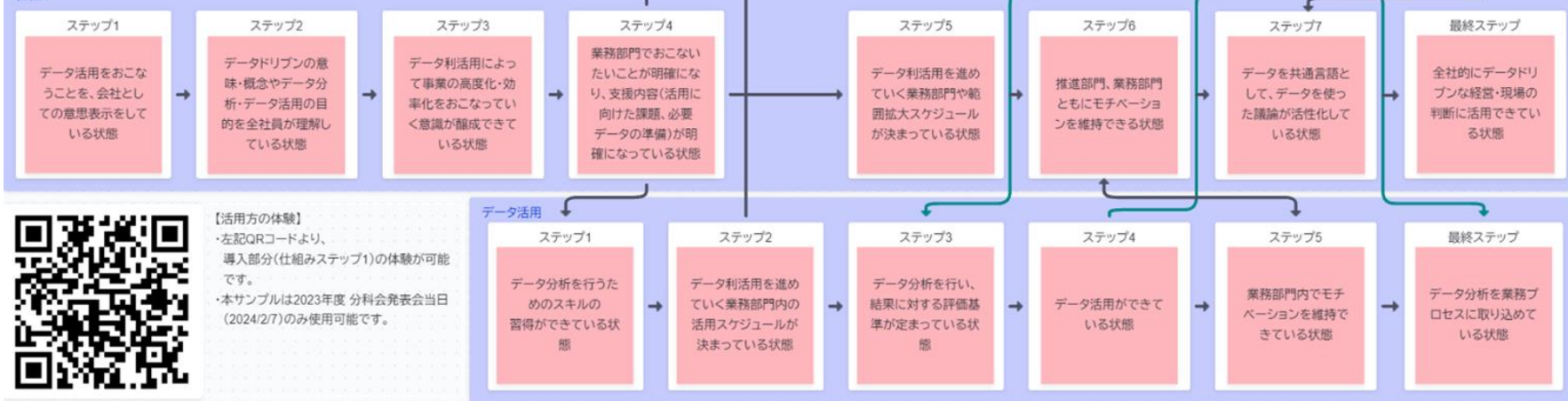
【注意事項】

- ・本資料は、印刷の都合上、データ活用文化醸成マップの到達点のみを抜粋しています。
- ・オリジナルのデータ活用文化醸成マップ(PDF)は、2023年度 成果報告書(データサイエンスをビジネスに分科会)と合わせて公開されています。

【凡例】



仕組み



【活用方の体験】

- ・左記QRコードより、導入部分(仕組みステップ1)の体験が可能です。
- ・本サンプルは2023年度 分科会発表会当日(2024/2/7)のみ使用可能です。



領域の繋がり



仕組みステップ4

ステップの到達点

業務部門でおこないたいことが明確になり、支援内容（活用に向けた課題、必要データの準備）が明確になっている状態

到達点に達するための課題

課題設定・
仮説設定

アクション・
担当の決定

推進部門の
役割を定義

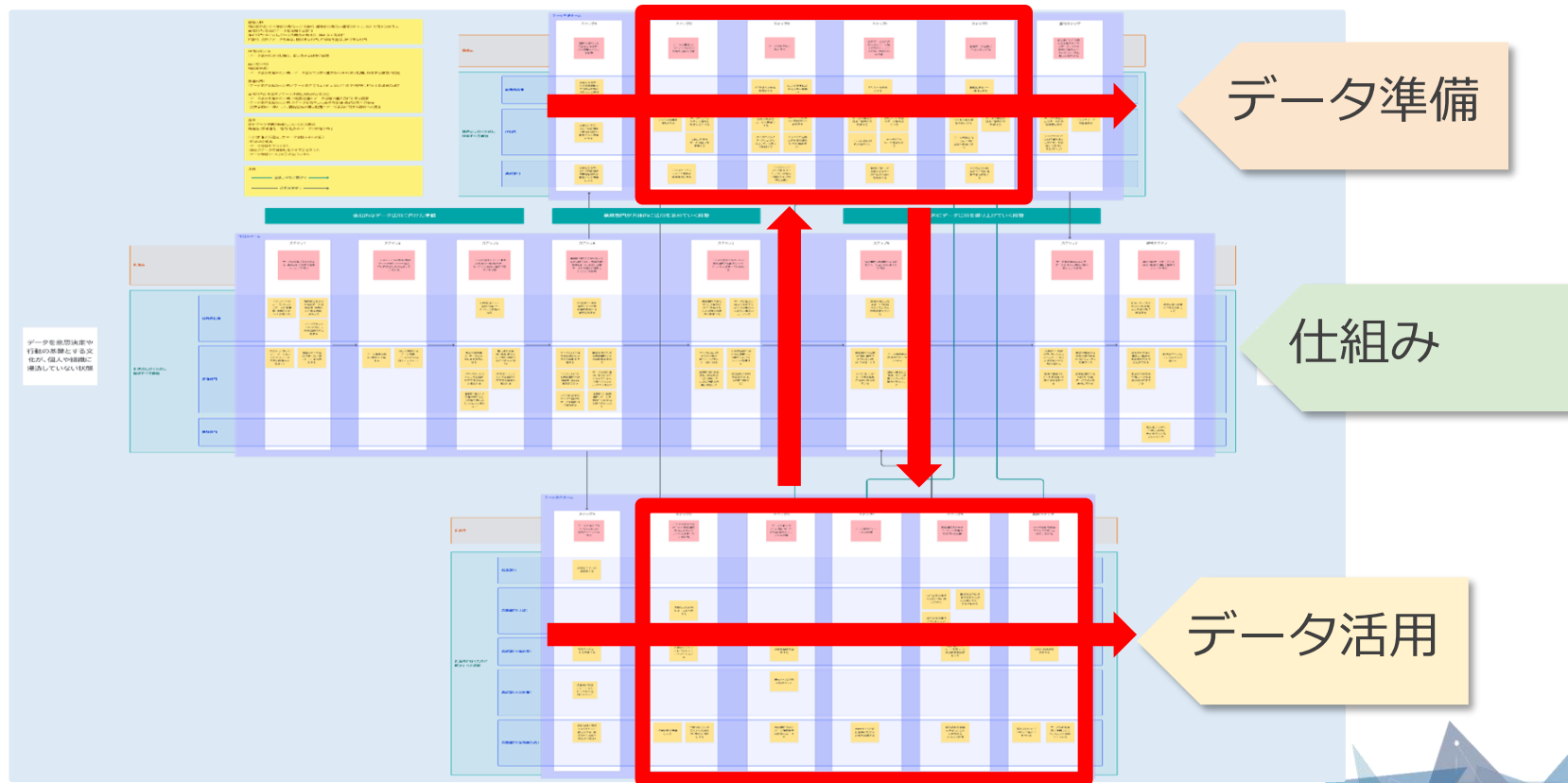
相談受付体制
の準備

データ提供の
依頼

推進部門の
信頼性向上

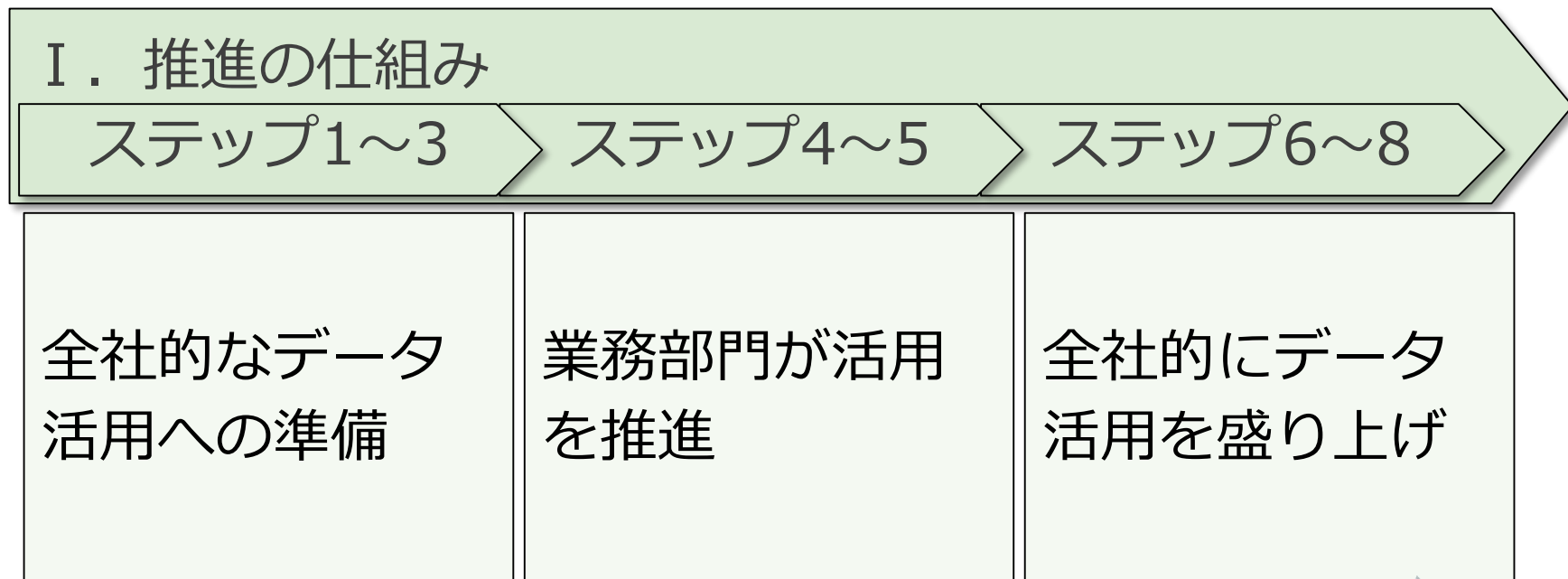
支援内容の
決定

領域の繋がり



到達点設定の考え方（仕組み）

仕組みに必要な要素より設定



到達点設定の考え方（データ準備）

データ準備に必要な要素より設定

Ⅱ. データの準備

ステップ1,2

ステップ3,4

ステップ5

ステップ6

データ
定義／理解

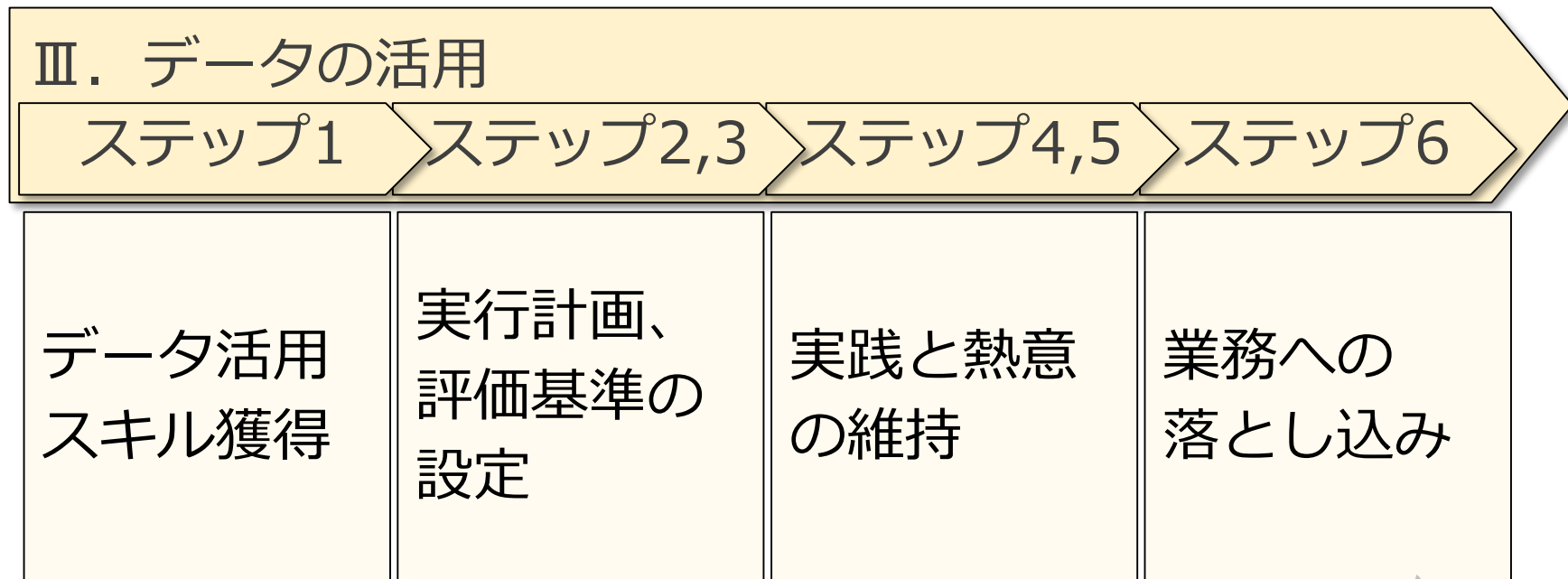
データ準備

データ品質
維持／向上

データ管理

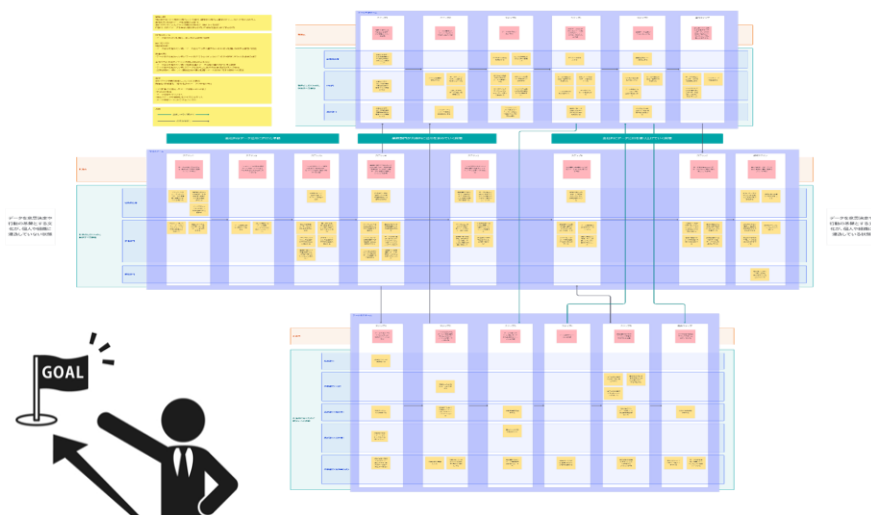
到達点設定の考え方（データ活用）

データ活用に必要な要素より設定



目標達成へのアプローチ

「データ活用文化醸成マップ」に沿って進める！



"GOAL

**データを意思決定や
行動の基盤とする
文化が、個人や組織に
浸透している状態**



Agenda

1. 分科会の目標
2. データ活用の現状と課題
3. 目標達成へのアプローチ
- 4. 成果物の活用**
5. まとめ

マップのユースケース



データ活用を始めたい
自社の現状を把握して、第一歩を踏み出すときに



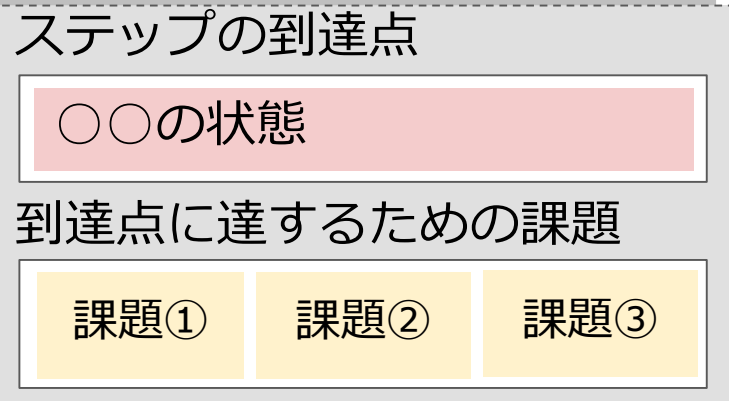
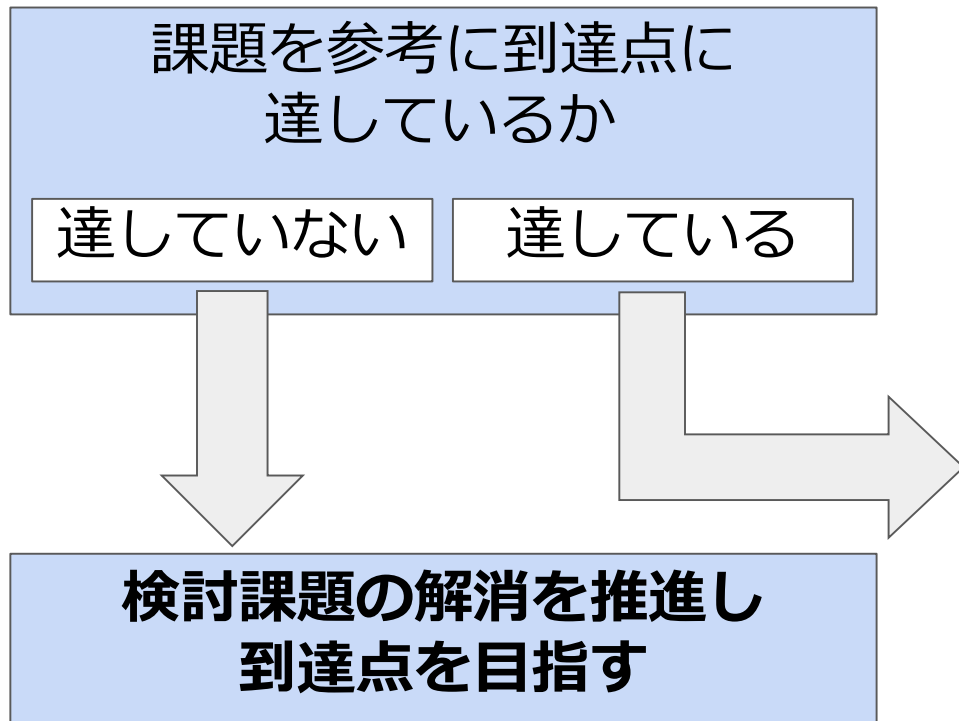
データ活用が進まない
踏み出したものの、行き詰ったときに




データ活用を提案したい
お互いに現状を見える化して、提案するときに

マップの使い方

マップ活用の流れ





実演をご覧ください！



実演の情報

＜登場人物＞

- 担当者 : 榎野さん
- 上司 : 若松さん
- 先輩 : 高橋さん、中村さん
- ナレーター : 前田さん

＜シチュエーション＞

- 舞台はデータサイエンス株式会社のIT部門。
- 若松さんは社内のデータ活用についてまとめるように指示を受けた。
- 若松さんは社内のデータ活用状況をほとんど把握できていない。
- 若松さんは榎野さんにデータ活用状況についてまとめるように依頼。

上司



榎野くん、データ活用についてまとめてもらえる？

担当者



わかりました！

でもどうしよう。。
先輩に相談するかぁ。。

担当者



先輩、ちょっといいですか？

うちの会社のデータ活用ってどんな感じですか？

先輩



うーん、難しいなあ。。

中村さん、どう思います？

先輩



データ活用なんて考えた
こともない。。

何からやればいいんだろう？

担当者



どうやって報告しよう。。。

上司



こんなもの見つけたんだけど、
どうかな？

このマップを使えば、
社内の状態が分かるみたいだよ！

先輩にも相談したんですけど、
何から始めればいいのか分からな
かったです。

担当者



ありがとうございます！！！！

全体構成



担当者



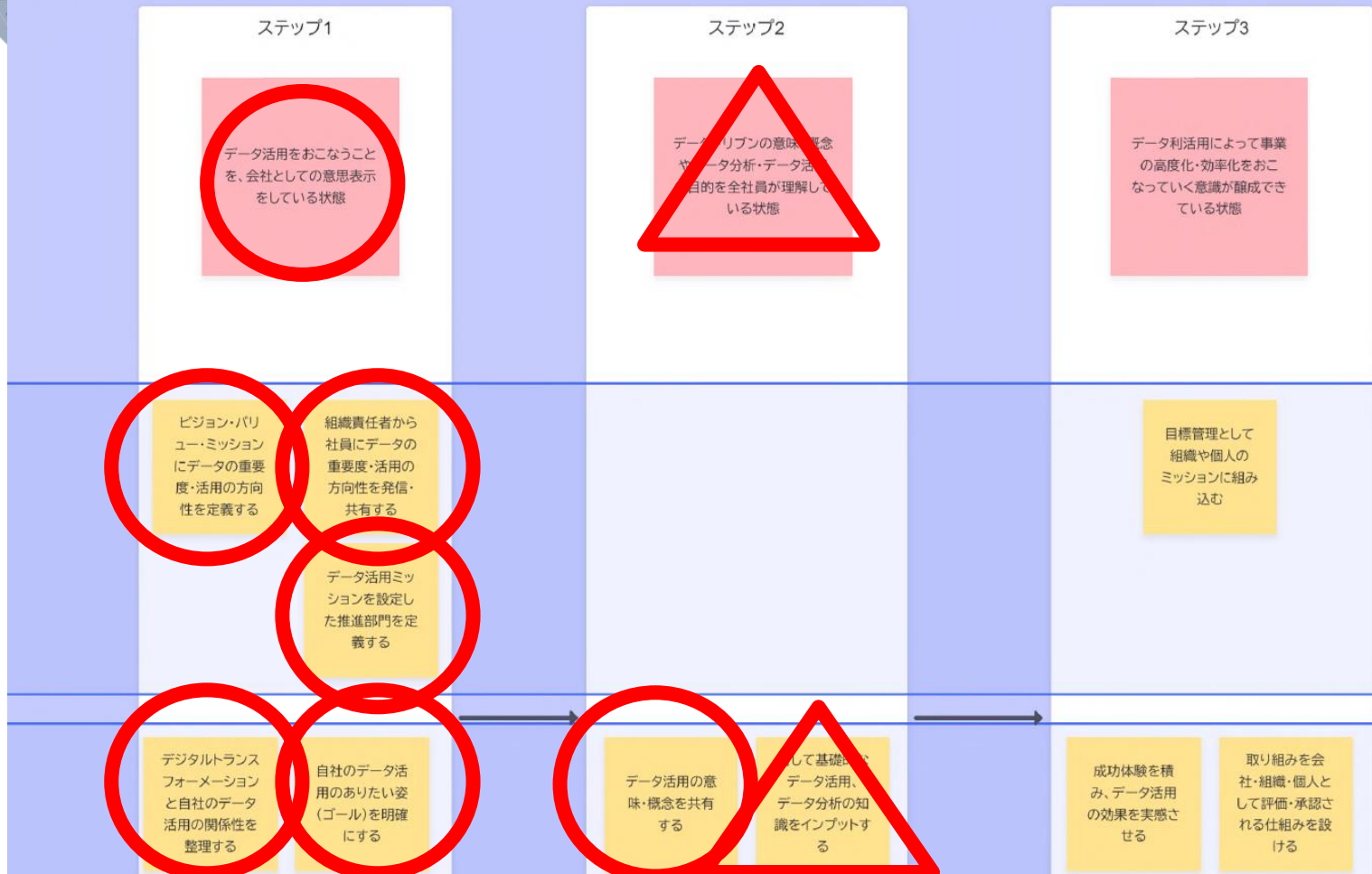
先輩、
こんなものもらったんですけど、
手伝ってもらえませんか？

先輩



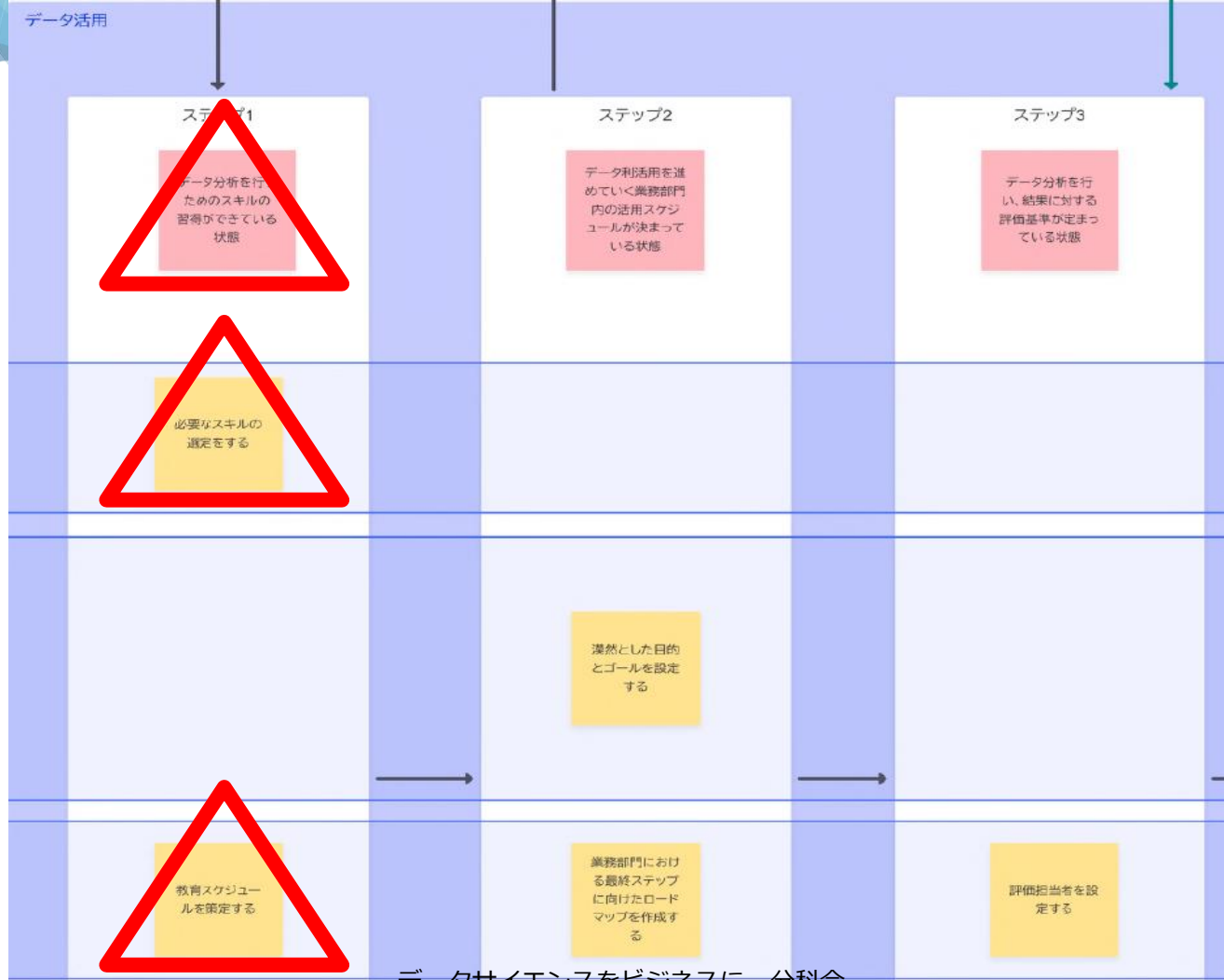
いいよ！

まずは仕組みからだね。

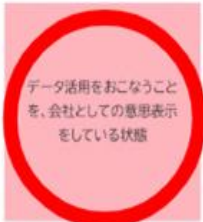


データ準備

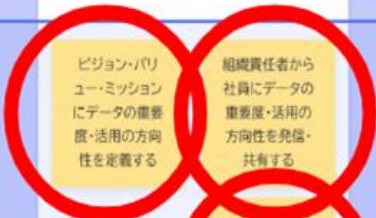




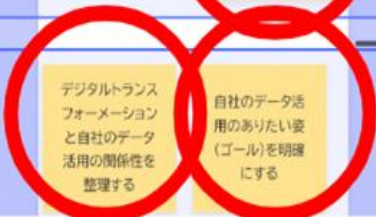
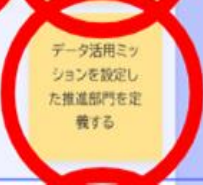
ステップ1



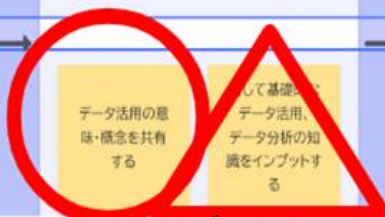
ステップ2



組織責任者から社員にデータの重要度・活用方向性を発信・共有する



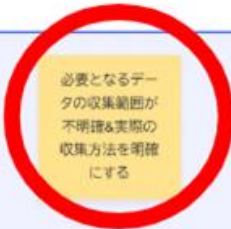
自社のデータ活用のありたい姿（ゴール）を明確にする



データ活用、データ分析の知識をインプットする

データ準備

ステップ1



データ活用

ステップ1



- ・ 後日、まとめた内容を役員会議にて報告
- ・ マップを使うことで、取り組むべき課題が明確に
- ・ 今後の取り組みに向けて動きだしました

課題 課題 課題





マップの効果

- ✓ 個別課題の把握
対処すべき課題がわかる
- ✓ 自社の現状把握
自社のデータ活用までのステップ感がわかる
- ✓ 次に起こすべきアクションの明確化
現状報告・共有内容、課題の優先順位がわかる



Agenda

1. 分科会の目標
2. データ活用の現状と課題
3. 目標達成へのアプローチ
4. 成果物の活用
- 5. まとめ**

まとめ（ユースケース）



データ活用を始めたいとき
最初の到達点と、取り組む課題がわかります！



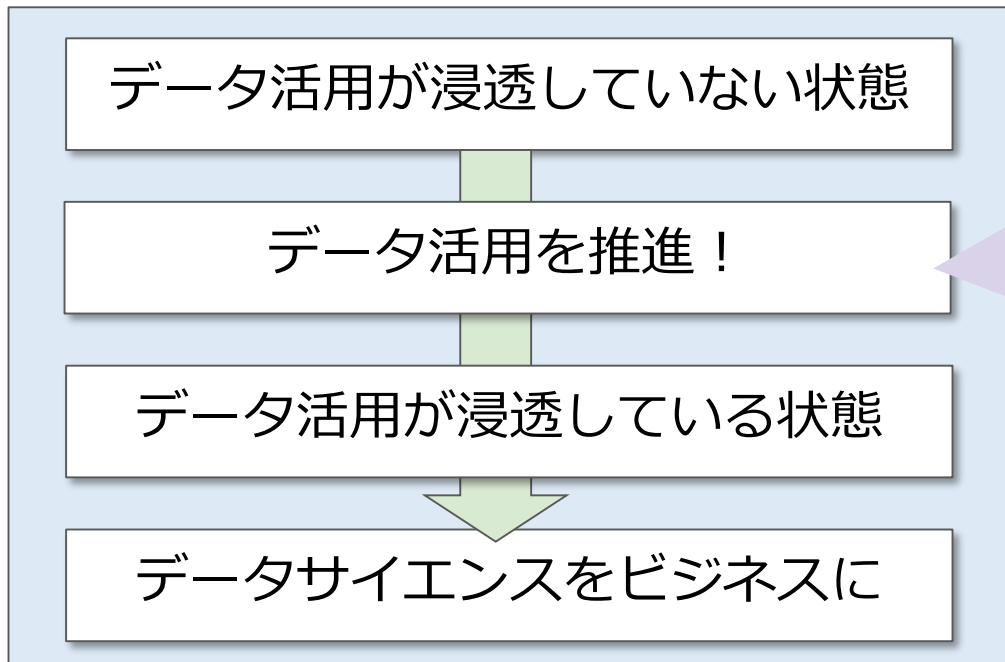
データ活用が進まないとき
未達の課題から、次の取り組みがわかります！



データ活用を提案したいとき
お互いに現状を見える化して、提案ができます！

まとめ（ビジネスへの発展）

マップで文化醸成→データサイエンスをビジネスに！



体験（使ってみてください）

お手元の資料に記載のQRコードから、「データ活用文化醸成マップ」の活用方をご体験ください。

※導入部分（仕組み：ステップ1）のみのサンプルです。

※本サンプルはプレゼン当日のみ利用可能です。



ご清聴ありがとうございました！

記載されている会社名、製品名は、
各社の商標または登録商標です。